特集

SDGs for Fukuchi

この町を持続可能にするためのヒント、探してみました。

2040年に消滅してしまうかもしれない「消滅可能性自治体」に選ばれてしまった福智町。この自然豊かな故郷を、大切な子どもたちに繋いでいくにはどうすればいいのでしょうか？

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsとは、「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現を目指す世界共通の目標です。「持続可能」とは、「何かをし続けられる」ということ。

2015年に日本創生会議から、2040年に若年女性（20～39歳の若年）人口が5割以下に減少する「消滅可能性都市」に選ばれてしまった福智町。できれば外れて欲しい予想です。「誰一人取り残さず」福智町が「存在し続けられる」にはどうしたらいいのでしょうか？町の財政健全化は勿論のことですが、今回は、全国的に取り沙汰されているローカル鉄道の在り方に関連して、福智町の重要な公共交通、平成筑豊鉄道の持続可能な在り方や、福智町のSDGsの取り組みを特集します。

↑SDGsには17の目標と169のターゲットから構成されています。SDGsは、みんながひとつしかないこの地球で暮らし続けられる「持続可能な世界」を実現するために進むべき道を示したナビのようなもの。

特集 SDGs for Fukuchi

sustainable transportation

持続可能な公共交通を目指して

「平成筑豊鉄道」。守らなければならない地域の「足」―

持続可能な町には持続可能な公共交通が必要です。少子高齢化が進み、交通空白地域が多い福智町にとって、公共交通の有無は死活問題。もし無くなってしまったら、どうやって通学するの？車を運転できない高齢者の通院、買い物の足は？さらなる人口減が進むことは容易に想像できます。

福智町の重要な公共交通の一つである平成筑豊鉄道。平成元年に地元の期待を背負い開業以来10年間黒字を続け、3セク鉄道の優等生として脚光を浴びました。しかし、平成16年に「大口顧客」の鉱山会社が事業を撤退し、収入源の16％を占める貨物輸送を失い赤字経営に転落。さらに沿線人口の減少、少子高齢化、マイカー社会の進展により乗客が減少、度重なる豪雨災害やコロナ禍も追い打ちをかけ、令和2年度の乗客数はピーク時の平成4年度の半数にまで減少し、令和4年3月期決算で25年連続の営業赤字を計上しました。

平成筑豊鉄道の「現状」を河合社長に聞く――

「全国的に鉄道の維持が大変厳しい状態ですが、我々中小ローカル鉄道は3つの共通課題（①沿線の人口減少、②施設の老朽化、③大雨や台風などの自然災害）を抱えており、基本的に沿線市町村の補助金で成り立っている状況です。現在はさらにコロナ禍がお客様の減少に追い打ちをかけていて、平筑の場合も全く同様です」。

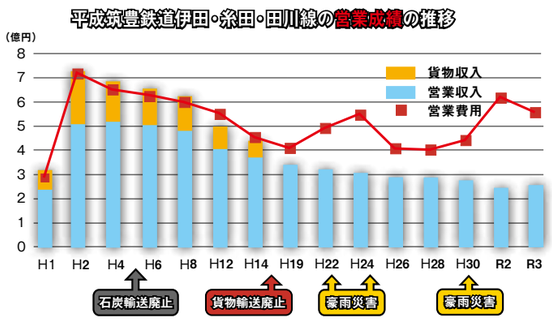
平成筑豊鉄道

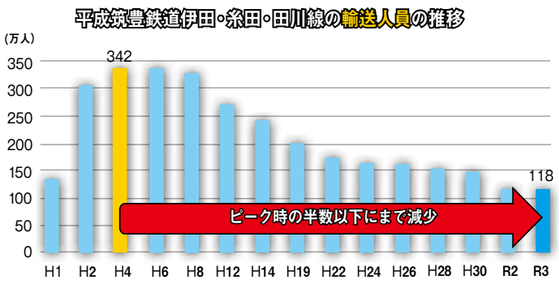
河合賢一代表取締役社長

平成筑豊鉄道初の公募社長として、88人の候補者から選ばれ平成29年10月に就任。東京大学理科Ⅰ類中退後、大分県職員、九州産交バス取締役を経て現職。

沿線人口は減少の一途。新規客を呼び込む様々な取り組み。

「少子高齢化の進展で沿線人口は今後も減少すると考えられるため、経営の維持には外部から新規客を呼び込むことが必要。そのために様々な取り組みを行っています。令和元年3月にデビューした「ことこと列車」は「ななつ星」を手掛けた水戸岡鋭治さんがデザインした車両で、ミシュランガイド一つ星店シェフ監修のフレンチコースを楽しめる列車。上質な体験が好評です。また、世界的アーティストのミヤザキケンスケさんと福智町の子どもたちが車両をペイントした「スーパーハッピートレイン」はSNSで「映える列車」として話題に。新規客を取り込むには、情報発信することが今の時代重要です。また、毎月のイベントでは、お子様にへいちくファンになっていただくことで、息の長いお客様を増やしてければと考えています。このような取り組みで増収とともに地域活性化にも繋げていきたいと考えています」。





未曽有の災害
が村から鉄路を奪った―

古く「立派すぎる」施設の維持管理が経営の負担に―

「平筑はもともと石炭を運ぶための鉄道を引き継いだので、施設が立派で歴史は古い。例えば直方と小竹の間の遠賀川に架かる橋は百年以上前にできた大変立派なものです。このような百年以上経っている施設が多数あるので、それをどうやって維持していくかが今後大変重たい問題になっていくはずです。

鉄道はバスと違ってインフラを抱えているので施設を維持管理しなければなりません。例えば鉄道の施設の一つにレールとレールの間に設置される「枕木」があります。枕木には「レールの間隔の維持」という重要な役割があります。したがって、枕木が劣化するとレールの間隔が維持できなくなり、最悪脱線するので、枕木の維持管理は非常に重要。平筑と同規模のローカル線が単線なのに対し、平筑は一部が複線です。したがって、単線と比べて単純に倍の費用と労力がかかります。平筑のレールの総延長は約50㎞です。レールとレールの間には枕木が約60㎝間隔で設置されていて、全部で十数万本の枕木があることになります。

このように単線の場合と比べて維持管理費がかかり、経営を圧迫する要因となっています。しかし、老朽化等について現状を正確に把握したうえで、必要なところからきちんと補修し安全を確保しなければなりません。」

❶全国にたった1台しかないキハ2004の撮影会。❷カラフルなハッピートレイン。見るとハッピーになれるかも?❸ことこと列車のフレンチコースには沿線市町村の食材をふんだんに使用。

平成29年7月九州北部豪雨。

災害により、図らずも鉄道からBRT(バス・ラピッド・トランジットの略。バス専用道やバス専用レーンを利用するバスによる高速輸送システム)へ切り替えることになった村があります。朝倉郡の東峰村です。甚大な被害を発生させた平成29年7月九州北部豪雨。この大雨により、東峰村を走るJR日田彦山線も壊滅的な被害を受けました。

公共交通消滅の危機。苦渋の決断。BRTとして復活。

沿線の被災市町村(東峰村、添田町、日田市)は日田彦山線を定時性が確保できる鉄道として復旧するよう、当初強く望みました。JR九州も鉄道復旧に前向きな姿勢を示していましたが、鉄道復旧費の試算額が約58億円に上ることが判明すると、「鉄道復旧する場合、沿線の各市町村に年間1億6千万円の運行経費を負担していただきたい」とトーンダウン。JR九州は関係市町村に、鉄道復旧の代わりにBRTでの復旧案を提示します。その内容は、彦山駅~宝珠山駅の区間は鉄道をバス専用道とし、それ以外の添田駅~小倉駅までの区間は一般道を利用するというもの。添田町と、久大本線がある日田市は案を受け入れますが、添田・夜明両方面への通勤通学者が多い東峰村は、「BRT路線全てが専用道でないと一般道で渋滞することがあるので定時制が確保できない」とし反対。鉄道復旧を求め署名活動、総決起集会が開かれるも、年間1億6千万円の費用負担が村民の肩に重くのしかかります。最終的に村は「断腸の思い」(当時の澁谷村長の表現)でBRTの受け入れを決定。

眞田現東峰村長は、「当時は一職員で意志決定する立場になかった」としながらも当時を振り返り、「他の自治体の意向もあり東峰村だけで決められることではなかった。「九州の自立を考える会」や、当時の小川知事との対話を重ね、BRTを受け入れざるを得ないとの結論に至った。無理に鉄道復旧しても多額の費用負担から数年後に便数減、廃線に至ったことも想像できる。鉄道復旧できなかったことは本当に残念。しかし、BRT化は、不況が続き今後も沿線人口の減少が進むことを踏まえると、持続可能な公共交通の在り方として仕方なかったのかしれない」と語りました。

眞田 秀樹

さなだ・ひでき
●東峰村長。同村総務課長、副村長を経て、令和3年10月に初当選。選挙戦では九州北部豪雨で被災したJR日田彦山線をBRTで復旧することに伴う、地域活性化や産業振興を訴えた。

←❶現在は鉄道の代わりにJR九州が代行バスを運行中。❷当時の苦労を語る東峰村の泉係長㊨と和田係長㊧。JR九州完全民営化時の経営安定基金を使えば鉄道復旧も可能だった?

BRTとオンデマンド交通を組み合わせ遠近双方をカバー。

北九州方面など遠方への広域交通をBRTが、通院や買い物のための近距交通をオンデマンドバスが担うことを想定している眞田村長。「BRT導入に伴う駅の新設や整備をチャンスととらえ、被災した東峰村と添田町の地域振興を推進するための「福岡県日田彦山線沿線地域振興基金」も活用し、復興を加速させたい」と意欲を見せました。

鉄道は一度廃線すると再開は困難。福智町も、交通弱者を取り残さない、持続可能な公共交通を維持していくためにはどうすべきか、考える時期に来ているのかもしれません。

←「撮り鉄」の名所だった村のシンボル眼鏡橋も九州北部豪雨で被災した㊨が、現在はバス専用道として整備中㊧。周辺を伐採し、景観を整備して観光資源として復活させたいという。

↑BRTの名称は「ひこぼしライン」に決定。2023年夏に開業予定。表示駅は主要駅で設置駅計画数は37。利便性向上のため25駅を新設する。

↑彦山駅と筑前岩屋駅間の全長4377mの釈迦岳トンネル。レールが撤去されBRT専用道を整備中。出口に見える微(かす)かな光明は彦星のよう。ひこぼしラインが文字通り被災市町村復興の希望の「星」となれるか。

オンデマンドバスのテスト運行が福智町でも1月から開始

福祉バスをより便利に、持続可能に。

ここまで平筑の現状と課題、東峰村のBRT導入の経緯について見てきましたが、福智町の重要な公共交通の一つ「福祉バス」を、持続可能な公共交通に転換するための取り組みとして「オンデマンドバス」のテスト運行を1月から行います。

オンデマンドバスとは、AI(人工知能)が予約時刻や予約状況によって最適ルートや乗る便を自動的に割り出してくれる便利な乗り合いバスです。乗客の需要の有無で最適ルートや運行の有無を決めるので、コストカットに繋がる持続可能な公共交通として期待されています。ご利用方法など詳細は、1月号でお知らせします。

特集 SDGs for Fukuchi
SUSTAINABLE ENVIROMENT

竹藪がアートを生み、アートが人と人の繋がりを生む。バンブープロジェクト in Fukuchi

近年増加する放置竹林。最近では厄介者扱いされることも少なくない竹を使って椅子やテーブル、アート作品をつくり、その作品で創った幻想的な空間で地域の人との交流や音楽を楽しむイベント「バンブープロジェクト」が市場で開催されました。

武蔵野美術大学の中国人留学生が竹藪から生み出してくれた幻想的な空間で、留学生と地域の人が楽しいひとときを過ごしました。

イベントは「7世代キャンプ場」で開催。老若男女が憩いのひとときを共にしました。

①材料の竹を切った切り口に証明を設置。「自然から人工への移り変わり」を表現しているという。②滞在中五十川マチ子さん㊨から貰った星のワッペンをずっと身につけていたシュウさん㊧。③材料の竹。材料調達と竹林の管理を両立。④鹿威しの動きをチェック。

近年増加する管理者不在の「放置竹林」。土砂災害の原因にも。

「雨後の筍」という言葉があるようにすぐに育つ竹ですが、その旺盛な生命力のため、竹林は1年でも手入れをサボると見るも無惨な姿に。根を浅く張る孟宗竹の性質上、管理されていない竹林は土砂災害の原因にもなります。このような「放置竹林」は、土地の所有者がわからない「所有者不明土地」問題とも相まって近年増加しています。面積の多くを山林が占める福智町も例外ではありません。

「厄介者」が作品の「材料」に。竹林の管理と材料調達を両立。

そんな厄介者扱いされることも少なくない孟宗竹を使って、椅子やテーブル、鹿威しなどを作り、それらで創った幻想的な空間で音楽や交流を楽しむイベント「バンブープロジェクト」が、9月に「7世代キャンプ場」(市場)で開催されました。イベントには地元住民をはじめ約30名が参加し、幻想的な空間での演奏と交流を楽しみました。作品は、武蔵野美術大学(東京)に在学中でこのイベントの趣旨に賛同する中国人留学生が、草場公民館に1週間住み込みで作成。作品の材料の調達のための伐採がそのまま竹林の管理にもなりました。

福智町でも進む「地域のつながり」の希薄化。その力を再発見。

留学生が公民館に滞在中、近所の皆さんが食材を持ちより夏野菜カレーを振る舞ってくれるなど、毎日のように差し入れを持ってきてくれたそうです。留学生は皆、「東京は隣に誰が住んでいるかも分からないけど、こちらは人と人の距離が近くてあたたかい」と口を揃えます。「ここは田舎だけど東京より落ち着く。私たちは皆田舎ものだから」と冗談交じりに言うのはグループリーダーの周少帆さん。近所の五十川マチ子さん(市場)が作ってくれた星形のワッペンを気に入って、滞在中ずっと身に付けていたそうです。大学では地域コミュニティの再構築をテーマに研究するシュウさんは「本当の勉強は学校ではなくこのように社会でするもの」と断言します。イベントにも参加した前述の五十川マチ子さん(市場)は「留学生は皆優しかった。最近は組に入らない人も増えてきて、コロナもあって近所の集まりがなかったけど、久しぶりに皆で集まって楽しかった」と目を細めていました。

バンブープロジェクトの「仕掛け人」日高将博さん
● 福智町市場在住。地域おこし協力隊として活動中。「竹林から生まれた作品で人と人を繋げる」をコンセプトに今回のプロジェクトを企画。「自宅裏山の竹林を伐採中、廃棄する大量の竹を有効活用できないかと思ったことが原点です。放置竹林と地域コミュニティの縮小に悩む地方の持続可能な未来のヒントになったら」と言います。

頼れるリーダー
周 少帆さん

威海市出身。古民家再生による地域活性化をテーマに研究している。デザインを通じて地域課題を解決したい。

音楽で人と人を繋ぐ
程 暁宇さん

内モンゴル出身。地域コミュニティの再構築をテーマに、音楽の人と人を繋ぐ力による地域活性化の研究を行っている。

音楽とダンスが大好き
張 菡宸さん

湖州出身。音楽とダンスに影響を受け、リズム、身体、空間の関係性を研究中。面白い物を作って全世代を楽しませたい。

福智町での出会いが楽しみ
朱 澤一さん

葫蘆島出身。バイオニクス表皮によるプロダクトデザインの研究と実践を行っている。大地の芸術とバイオアートが好き。

工学とデザインを繋げる
王 小彤さん

鄭州市出身。機械工学専攻。デザイン工学に興味があり、ゲーム(プレイと制作両方)と哲学、装置制作が趣味。

持続可能な福智町の提言発表会

方城中学校

総合的な学習の一環でパソコンソフトを駆使し福智町のSDGsを考える

住み続けられる故郷を若者の視点で考える

「自分で課題を発見する力、情報の収集・発信する力、仲間と協力する力」など生徒が未来で活躍するために欠かせない力の育成に取り組んでいる方城中学校。そこで、方城中3年生はSDGsの目標11「住み続けられるまちづくりを」をテーマに、各クラス5班に分かれ、福智町を持続可能にするためのアイデアを1か月間熟考。9月30日に行政職員など多くの関係者の前で提言を発表しました。

3年1組は「人が集まる町、ごみの少ない町、健康安全な町」など多くの視点から持続可能にする方法を発表。3年2組はより具体的にコストやSNSを使った情報発信などを提言しました。

SDGsに真剣に向き合い、大人も知らないデータやユニークな発想を出す生徒たち。考え、学ぶことがSDGs達成への第一歩になります。

1 2 緊張しながらも堂々と提言を発表した生徒たち。3 仲間たちの提言に耳を傾け、真剣に話を聞く生徒たち。4 行政職員が生徒たちの提言に対し、町の考え方や取り組みを丁寧に回答。5 福智町防災アドバイザー・高木さんが会社の活動やSDGsに取り組む事例を紹介。

温泉de子ども食堂

天然温泉 日王の湯

温かい食事とお風呂を提供全国的にも珍しい天然温泉での子ども食堂がオープン

温泉施設の強み生かしあたたかな居場所作り

温泉de子ども食堂は、その名のとおり「天然温泉日王の湯」が温泉施設の強みを生かし、地域の子どもたちに温かい食事とお風呂を提供したいという思いから始めました。昨年12月7日に第1回を開き、11月で10回目を迎えました。現在、福智町近隣の小・中学生およびその保護者を対象に毎月第2火曜に開催。天然温泉を楽しんだのち、特製のカレーライスを無料で提供しています。

日王の湯は、子どもたちの居場所や地域の皆さまとのにぎわいを楽しみ、子どもたちが自然と笑顔になれる子ども食堂を目指しています。また、つながりを作ることで、小学校や中学校をまたいだ友達を作ってくれるとうれしく思います。

天然温泉日王の湯
支配人 大塚秀樹

コラボ企画

母子支援施設くぬぎの里主催「フードパントリー」

第9回「温泉de子ども食堂」では母子支援施設くぬぎの里主催の「フードパントリー」とコラボ。くぬぎの里は、寄付された食料品や日用品、衣服などを無料配布しています。（不定期で実施）

←（左下）が第9回温泉de子ども食堂と合同で行った「フードパントリー」。「支援する」という同じ思いでコラボが決定。

町の看板商品の創出

福智町観光庁事業

町の観光資源を活用した魅力発信と知名度向上のモニターツアーを実施

持続可能な観光の推進 文化・経済を守り育む

福智町では、町の伝統・文化の魅力発信と知名度向上とともに看板商品の創出、将来的なインバウンドを見据えた、町の持続可能な観光の推進に取り組んでいます。そこで、400年以上の歴史を誇る国指定伝統的工芸品「上野焼」や「ふれあい塾」を活用したツアー造成を目指し、モニターツアーを11月2日に行いました。

福智町観光ガイド「ふくち案内人」による町や上野焼などの説明のもと、上野焼窯元・渡窯を見学し、作陶（ろくろ）体験やお茶会体験を実施。ふれあい塾に移動後、炭火・鉄板焼ステーキ&ハンバーグくずはらの協力で、上野焼の器で味わう特別ランチコースを提供しました。

町の観光資源を最大限に活用し、地域の文化・経済を守り育む。課題はありますが、上野焼の魅力や歴史は確かな手応えを感じました。

1 登り窯の説明をする渡窯・渡仁さん。2 3 湯飲みやお皿など作陶（ろくろ）体験に集中。4 ふくち案内人・吉本さんが上野焼を説明。5 6 ふれあい塾で上野焼の器で味わう青空レストラン。（田舎野菜のコンソメすいとん仕立て㊨、ローストビーフのトリュフソース）

SDGsの主人公は私たち

普段の何気ない生活の中でもSDGsの達成につながる意識・行動はたくさんあります。できることからやってみましょう。

すぐに行動できること

◉マイバッグやマイボトルを活用する　◉ペットボトルの分別　◉節水・節電をする　◉地元の食材を購入する
◉オンライン決済サービスを利用する　◉冷房や暖房の設定温度を意識する　◉認証マークがついた商品を選ぶ
◉環境に配慮した製品やサービスを利用する　◉食品ロスを減らす　◉できるだけ公共交通機関を利用する

未開封の食品を寄付する

福智町社会福祉協議会が「フードバンク」を行っており、企業や家庭などに捨ててしまう未開封の食品の寄付を受け付けています。例）米、缶詰、乾物、飲料など　受付場所▶ 福智町社会福祉協議会　☎ 22-6631

インターネットで調べる

◉日本ユニセフ協会「SDGs CLUB」

◉外務省「JAPAN SDGs Action Platform」

◉国際連合広報センター「持続可能な開発」

◉JICA地球ひろば「SDGs（持続可能な開発目標）を学べる教材」

本で学ぶ

図書館・歴史資料館「ふくちのち」で、SDGsに関する書籍を無料で借りることができます。

書籍の一部をご紹介します

◉すぐにできることからがんばってしようこどもSDGs
みきつきみ／著
（弘文堂）

◉SDGsの基礎
白田範史／編
（事業構想大学院大学出版部）

◉知っていますか？SDGs
日本ユニセフ協会／制作協力
（さ・え・ら書房）